



日本キリスト教保育所同盟 (題字 前理事長・木村 量好)

THE ASSOCIATION OF CHRISTIAN NURSERIES IN JAPAN

事務局 つくし保育園内 〒601-1336 京都市伏見区醍醐柏森町25
発行責任者 理事長 小南 進

「沖縄から見える日本の過去と現在、そして未来」 ～宮森630生還者のメッセージ～

兵庫地区 一麦保育園 平良 嘉男

沖縄は大海に囲まれた亜熱帯の島である。真っ青な空とコバルトブルーの海をいつでも見ることができる。真冬でも亜熱帯植物の花々が咲き乱れており、晴れた日にはクーラーをつけてドライブする程だ。温暖な気候と豊かな自然、そして中国や東南アジア諸国等とグローバルな交易をしながら琉球王国を築いた歴史・文化を持つ魅力ある島だ。人々は、温暖なリゾート地で豊かな歴史・文化を持つ沖縄というイメージを持って訪れる方々がほとんどであろう。

しかし、国土面積0.6%のこの小さな島に、極東最大の嘉手納基地や“世界で一番危険な基地”と元米国国務長官ラムズフェルドに言わしめた普天間基地等々、日本国内にある米軍の基地及びその関連施設の約74%が置かれている。我が島は不沈空母と称される「基地の島沖縄」でもあるのだ。

その基地あるが故に必然的に日本における戦後最大の米軍の事故が起こった。それは、1959年6月30日の朝、旧石川市(現うるま市)の聖地、宮森の地に立つ宮森小学校に整備不良の米軍戦闘機が落ちた事故である。児童が11名死亡、150名が重軽傷を負った。平和な学園は米軍の戦闘機によって破壊された。その事故の事を私は「宮森630(6月30日に米軍機が宮森小学校に落ちたの意)」と呼んでいる。

私はその事故から火の粉を浴びながら生き延びた一人である。当時二年生だった。あの事故から49年後の2008年4月、母校に学校長として赴任することになった。翌年は事故50年の節目を迎えるという巡り合せとなった。風化してしまった戦後最大の米軍事故で生き延びた当時の児童が学校長として赴任するというドラマチックな巡り合せ。当然ながらメディアの注目の的となり全国のメディアに取り上げられることになった。そのことが、忘れていた県民の記憶を呼び覚ますとともに、多くの国民に知らされてなかった琉球・沖縄の歴史の一端を知らせることになった。

この巡り合せはどう考えても、犠牲となった11名の児童が、事故のメッセージを今日の世に問う役目を担って欲しいと私を呼び寄せたのだと理解せざるを得なかった。そのように受け止めた私は、今日まで彼らに背中を押されるように宮森630のかたいび(語り部)として国内外を行脚することになった。

さて、今日に至っては日本政府が沖縄に過重な基地負担を強いる「地政学的」や「抑止力」という常套句には根拠がないことは明確だ。沖縄県が防衛省に対し「沖縄の米軍基地の地政学的な根拠」の説明を求めたことに対しての防衛省の回答は「近くもなく遠くもなく」という曖昧な回答である。極め付きは、鳩山元首相の「沖縄の基地の抑止力は方便だった。」という発言や、森本元防衛大臣の「軍事的には沖縄でなくても良いが、政治的に考えると、沖縄が最適の地域である」等の発言がその証である。要は、沖縄以外の日本において基地を受入れる場所がないから沖縄に配置するのだということだ。

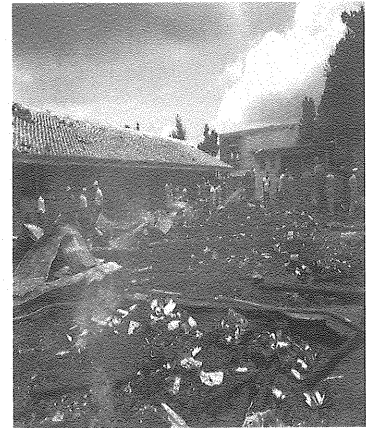
米国側においても、元米国国務長官 ラムズフェルドは、沖縄県出身のジャーナリストの単独インタビューの中で「沖縄の基地問題

は、日本と沖縄県の問題である」と言い切っている。言い換えれば米国は特段沖縄でなくても良いということであり、日本政府が政策として沖縄に基地を集中させているだけのことである。

その上、県民の反対の声を無視しオスプレイを強行配備し、辺野古への新基地も建設するという本土の政権。それは、1609年、当事の幕府と薩摩藩が琉球を侵略して以来400年余も続く侵略者と侵略された者の構図だ。

何度も悲痛な叫びを上げ続けてきた沖縄の人々、心折れてはならない。これまでの叫びは天に届いているからだ。聖書では「いまイスラエルの人々の叫びがわたしに届いた。わたしはまたエジプトびとが彼らをしえたげる、そのしえたげを見た。(出エジプト3:9)」また、「わたしは神にむかい声をあげて叫ぶ。わたしが神にむかって声をあげれば、神はわたしに聞かれる。(詩篇77:1)」とある。神は義なる方なのである。

55年前に起こった「宮森630」が発信するメッセージは琉球・沖縄の過去・現在・未来を視るものであると同時に、日本の過去・現在・未来、ひいては21世紀の世界のそれを視るものであることを訴えたい。



「第56回 夏季保育大学報告」

東京地区実行委員会

主の聖名を讃美いたします。

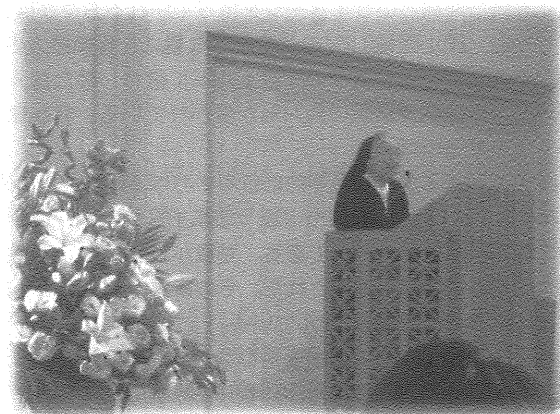
「主がともにいてくださるキリスト教保育」～新しい風に向かって～を主題として8月20～22日まで、霊南坂教会を会場に開催いたしました。全国から320名の皆様に参加をいただき、心から感謝を申し上げます。初めに本同盟大野光信副理事長による開会礼拝をもってのスタートでした。同じく新井純理事長代行からの歓迎の挨拶を頂き、つづいて第三者評価認定授与式が行われました。

福島県の川谷保育園に岡山孝太郎委員長から認定書が手渡されました。

講演 「置かれたところで咲く」 渡辺和子氏

講演の際、一時間半立って話される姿は、凛として若々しく、声は良く通って感動しました。参加した職員は「今の仕事一つに心を込め、ていねいにしていこうと思った。」「なさっていること全てに祈りが込められていると感じた。」「話の中でうかがわれる生活や働きが、僭越(せんえつ)ながら天国に宝物を積んでいると思った。」という感想を聞かせてくれました。

一つひとつの言葉が、今も心の中で宝石のように輝いています。(大橋)



懇親会 「ホテルオークラ」

懇親会は、ハワイアンの演奏と共に始まり、ゆるい調べが、外の熱気をハワイの風に変えてくれました。その後は、洋食ディナー。料理長が紹介した料理をゆっくり味わう間もなく、次々と運ばれてきたのは、アトラクションをじっくり聴いて頂く為でした。多摩ドリームジャズオーケストラの演奏は、いかがでしたか？きっと皆さんも、感動と笑いと元気をももらったことと信じてやみません。(大橋)

講演 「聞く喜び 読む楽しみ」 佐藤英和氏



「ひゃくまんびきのねこ」の読み聞かせをゆっくりと思いを込めて読み、「絵本は読んでもらわなければ絵本の世界が分からない、繰り返し読む事で絵から子ども達は想像してお話を広げて楽しんでいく」と言われ、「子どもたちに、ぜひ絵本との出会いの時間を豊かに進めて欲しい」と結ばれました。(千葉)

フィールドワーク①キリスト教書店・銀座教会とキャラクターショップ

地下鉄を使っての移動。「教文館」では、村岡花子さんに関する特別展示、また藤城清治さんの影絵の原画展などが開催されていました。「聖書協会」では日本最古の聖書も目にする事ができました。そして「銀座教会」へ。1890年の昔から東京の歴史とともに歩んできた前教会の建物の一部が写真パネルと共に展示され、そのはたらきの大きさを感じることができました。(鈴木)

講演 「主にある子どもを育てる喜び」—子どもが自立・自律して逞しく育っていく

佐々木正美氏

「こどもへのまなざし」等の著書で知られる児童精神科医の佐々木氏。話の中では、自己表現とは神から与えられた命が意味あるものに実現していくこと、幸福とは他者を幸福にしながら生きていくこと等、スタックサリバン氏やエリクソン氏の言葉を引用しながら説明をされました。子どもの遊びについても話され、遊びの中で子どもは、規制、役割、仲間の承認、義務、努力、感動、激励と慰め、倫理など多くのことを学んでいくのだと語られました。先生の温かい言葉とまなざしにより、激励と共に癒されたような講演でした。(鈴木)



保育係

兄弟姉妹関係と友人関係でやってきた子どもたち9名の保育でした。小学生が多く、はじめは一緒に遊ぶことも難しかったのですが、数時間一緒に過ごすうちに友達になり、お別れの際には、友達になった子どもたち同士「また来年会えるかな？」と希望と期待を持ってそれぞれの帰途につきました。

(鶴沢)

会場係として

音響・空調についての、多数のご意見をいただきました。東京は連日猛暑が続いていたので、エアコンも低く設定しましたが、会場の熱気もあり、追いつかない状態でした。また音響の方は、聞き取れず配慮に欠けていたと反省です。

(寺木)

記録・写真担当

東京地区先生方と一緒にという思いで参加しました。写真を整理して記録として残していこうと思います。この経験は次につながる神様のお導きであると確信しています。

(宮)

玄関・荷物置き場担当

玄関では北は奥羽、南は沖縄地区の皆さんから「こんにちは」と笑顔の挨拶を頂き、“今年も会えましたね”と、出会いに心があつくなりました。そして終了後、荷物置き場で”気をつけてお帰り下さい”の思いに「ご苦労様」の声をいただき、互いの思いが通い合った気がしました。

(青島)

朝の礼拝チャプレンをつとめて頂いた林牧人牧師、閉会礼拝石井錦一牧師の「キリスト教主義の保育園に勤務して頂き、感謝をします。」との言葉に感動です。準備に関わった皆様、暑い中研修に参加していただいた方々に御礼を申し上げます。霊南坂教会のパイプオルガンには癒されました。来年は広島でお会いしましょう！

(早坂)

『福島県の子ども甲状腺検査』

会津放射能情報センター 代表 片岡輝美

2011年10月から、福島原発事故当時18才以下の子ども約37万人を対象に「甲状腺検査」が始まり、原発立地近隣地域から順次進められ、2014年3月に「先行調査」が終了しました。福島県内小中学校の夏休み最終日である8月24日、第16回県民健康調査検討委員会は全県約30万人を検査した結果、子どもの甲状腺ガン確定は57人、強い疑いは46人と発表しました。事故前は「100万人に1人か2人」と言われた病気ですから、約300倍の発症です。しかし、福島県は「原発事故の影響とは考えにくい」と言います。主な理由は次のようなことです。

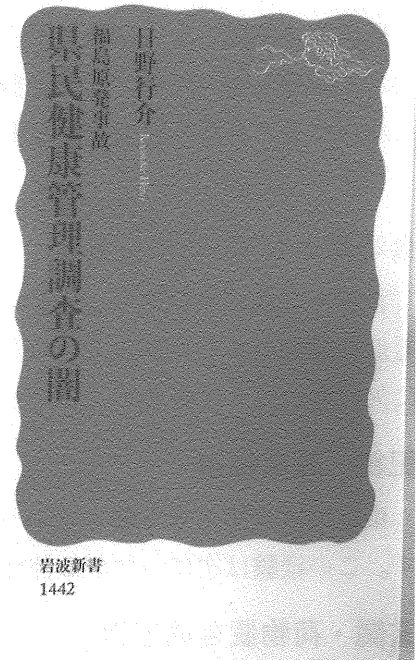
1. チェルノブイリ原発事故4～5年後の発症と比較して発症が早すぎること。
2. チェルノブイリ原発事故と比較し、発症年齢分布が違うこと。
3. この調査は精密な機器で行ったため、本来見つからなくても良いガンを発見されたこと。
4. 低線量の会津地方の発症数は高線量の地方と比較してもほぼ同数となり、地域差はないことから全県において問題はないと判断できること。

私は、2番について反論を書いてみたいと思います。旧ソ連での小児甲状腺ガン発症は未就学児に発症の大きな山が見られるのに対し、福島県による検査では、10代後半に集中しています。この山の違いが福島原発事故の影響ではないとしています。

昨年、「山びこ」でもお伝えしたように、2年前の夏私はベラルーシを訪れ、チェルノブイリ原発事故被災者から数多くの証言を聞きました。事故直後、小学生以上は旧ソ連国内に点在するキャンプ場へ避難。子どもたちが数ヶ月滞在している間、学校を中心に除染が行われました。子どもたちが帰宅した後、できるだけ長い時間除染された学校に置くために、2回の給食と昼寝をさせました。しかし、未就学児は避難できず、高濃度被ばく地域の親元に留まりました。

このことによって、チェルノブイリ原発事故後、幼い子どもたちが甲状腺ガンを発症したと考えられます。一方、福島原発事故後、親たちは幼い子どもたちを抱え避難をしました。しかし、小学校中学年以上の子どもたちは、お友だちを残して自分だけ避難することを拒みませんでした。安心安全キャンペーンにより新学期は予定通り始まりました。事故前と何も変わらない学校生活が始まり、校庭での体育や部活動が再開されました。となれば、県内の10代を中心とした発症は説明がつくと、私は考えています。

2013年3月24日、会津大学で甲状腺検査説明会があり、会津放射能情報センター仲間と参加しました。そ





の時点で甲状腺ガンを発症した子どもは3名。説明者の鈴木眞一教授は、会津地方の甲状腺検査が、いつ実施されるのかも決まっていないにもかかわらず、「会津地方は空間線量が低いので、みなさんの子どもさんは大丈夫です。甲状腺ガンはおとなしいガンです。万が一発症しても、予後が良いので薬を飲み続ければ大丈夫です。転移はあり得ません。たった3人の発症は原発事故と無関係です」と断言。検査もまだなのに「大丈夫って何?」「たった3人とは何事だ!」と私たちは猛抗議し、会場は大混乱しました。

あれから、1年5ヶ月。発症者は冒頭の人数になりました。「強い疑い」はほぼガン確定者ですから、総計で103名です。鈴木教授は8月末の第16回検討委員会では公表しなかったことを、程なく開かれた癌学会では自分の研究成果として、このように発表しました、「2人の子どもたちは肺にガンが転移している」。転移がないと断言した同教授の口から転移が起きていることが報告されたのです。子どもの肺ガンなんて、私は聞いたことがありません。

《新聞記事

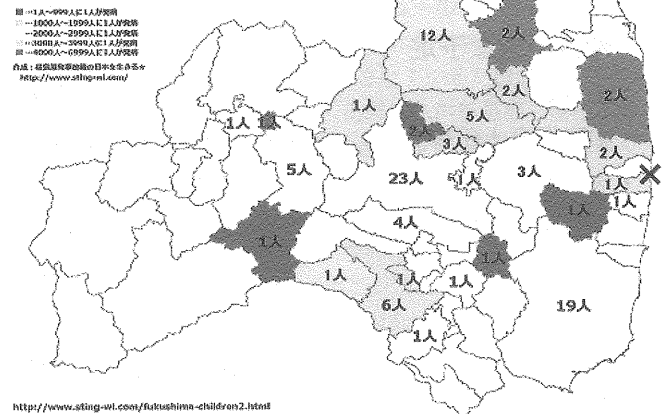
甲状腺検査説明会で質問に立つ片岡輝美氏》

空間放射線量が低いとされる会津若松市では14,632人中5人が小児甲状腺ガンを発症。二次検査対象者は158人。高線量が測定される中通りのいくつかの町と割合は変わりません。しかも、安全と言われた会津地方やいわき市、県南地域だけに、危機意識が低く受診率は約72%に留まっています。

発症した子どもの多さにも、私たちは動揺しています。しかし、数だけではないのです。私たちは、一人ひとりの子どもの悲しみと不安、子どもを守りきれなかった親の悔しさを想像しなくてははいけません。

この3年間の検査は「先行調査」とされ、4月からの検査が「本格検査」です。原発事故の影響は4年目から始まると考えられているからです。今後、103人の発症は、「原発事故由来によるものではなく、生まれつきの疾病」になるかもしれません。私は、今はまだ原発事故の影響であると判断できない時であることも、充分承知しています。しかし、この3年間の検査は、一体誰のための、何のための調査であるのか。私たちの疑念は大きくなるばかりです。なぜなら、原発再稼働と海外輸出実現のためには、どうしても「原発事故影響の過小評価」が必要だからです。

福島県小児甲状腺がん及び疑い合計103人 (2014年6月30日現在)



http://www.afing-wl.com/fukushima-children2.html

「事務局だより」

☆ 第18回バングラデシュの保育を支える会について

- ・ 6月9日～6月16日、「第18回バングラデシュの保育を支える会」を実施しました。プレスクール小屋の視察、子どもたちとの交流、プレスクールの先生方とのワークショップ、ショミティの母親たちとの交流、少数民族ガロ族との異文化交流など内容豊かな旅でした。参加者は8名でした。

☆ 第56回夏季保育大学について

- ・ 8月20日（木）～22日（土）、日本基督教団霊南坂教会（宿泊 ホテルオークラ）を会場に第56回夏季保育大学が開催されました。参加者は324名でした。詳しいことは報告をごらんください。
- ・ 開会礼拝後、川谷保育園（福島県）に第三者評価委員会岡山幸太郎委員長より「評価認定書」が渡されました。

☆ 本部「震災支援活動」～お絵かきケア・プロジェクト～について

福島県西白河郡にあります川谷保育園において、「こども子育て応援センターの小学生」と年長児クラスの子どもたちを対象とした「お絵かきケア・プロジェクト」が実施されています。指導は、アトリエ色彩楽園主催の藤井昌子さんです。

10月19日（日）には、2回目の「あおぞらおえかきひろば福島」が計画されています。

☆ キ保同保育研究会について

現在まで計7回の「研究会」を京都と東京で実施しています。「研究会」の成果は「日本キリスト教保育所同盟ミッションステートメント」としてまとめ、皆さまにご報告したいと思っています。

☆ 園長研修会について

10月20日（月）～21日（火）、蒲郡温泉ホテル竹島（愛知県）において開催いたします。講師にフェリアン（女性ライフサイクル研究所）の津村 薫さんをお迎えして、「人材育成と組織マネジメント」について学びます。また、中江 潤さん（京都地区理事）より「新制度」について発題を受け、情報交換・意見交換をしたいと思います。多数のご参加をお待ちしています。

☆ 2014年度 中堅保育士研修会について

11月12日（水）～14日（金）、日本基督教団浅草教会において開催いたします。今回は東京地区主催の研修会とコラボレーションして実施いたします。新しい試みです。定員50名ですので、お早めにお申込みください。

☆ 第三者評価について

本年度受診ご希望の方は、事務局までお知らせください。随時受け付けています。また、受診をお悩みの方は、資料だけでもご請求ください。申請書ほか「保育に関する自己評価票」など一式をお送りいたします。

☆ 今後の主な予定

- | | | |
|--------------|-----------------|------------------|
| ・ 園長研修会 | 2014年10月20日～21日 | 於. 蒲郡温泉ホテル竹島（愛知） |
| ・ 中堅保育士研修会 | 2014年11月12日～14日 | 於. 日本キリスト教団 浅草教会 |
| ・ スキルアップ研修会 | 2015年1月20日～21日 | 於. コミュニティ嵯峨野 |
| ・ 栄養士・調理師研修会 | 2015年2月 | 於. 未定 |
| ・ 理事会 | 2015年2月16日～17日 | 於. 未定 |

